

☆放課後子ども教室☆

すっかりと雪景色になってしまいました。長い雪の季節を思うとため息も聞こえてきそうですが、雪の降り始めというのは、大人になってもどこかウキウキとした気分になるのは私だけでしょうか。子どもたちの上着もスキーウェアに防寒靴、帽子に手袋と衣替え。「雪遊びはいつするの？」と外での雪遊びも楽しみにしている様子です。雪がもう少し積もったら、自由時間にも外で雪遊びをしたいと思います。

11月のプログラムではスポーツプログラムや、壁かけ飾りづくり、リンゴを使ったおやつづくりなどを行いました。スポーツプログラムでは、高学年は大きなボールを指名した相手チームにとられないように動きながら飛ばして得点を競う『キンボール』というゲームを、低学年では足ではなく手でボールをはじいてパスをしたり、ゴールを決めたりする『ハンドサッカー』を実施しました。スポーツをしていると当然のことながら、勝敗を決する場面が出てきます。勝つてうれしい、負けて悔しいという感情の動きがあることもスポーツの魅力だと思い、活動の中に組み込んでいるのですが、最近ではゲーム開始前から「どうせ負けるからやりたくない」「別に勝ちたいって思ってるやっけないから」と言う子が増えてきました。負けることへの不安なのか、勝敗がつく場面を避けるような言葉が目立ちます。実際にやってみれば楽しく遊んでいるのですが、負けたときこそ次につながるチャンス、勝ったり負けたりするけど楽しい！と思えるような働きかけが必要なのかな、と感じました。



子どもたちの発想力や人前に立って話をしたりする力を伸ばす試みとして、【遊び会議】という活動にも挑戦。オニごっこやリレーなどの遊びのジャンルを選び、グループの中でどんな遊びをするか、どのようにみんなに説明するかなどを話し合います。そして、実際に子どもたちがスタッフ役となってルールを説明し、活動を進めました。相手に分かりやすく伝えるためにはどうすれば良いか考えること。また、聞く側になったとき、どうすれば相手が話しやすい環境をつくれるのかを体験的に学ぶ良い機会になったと思います。



モノづくり、おやつづくりはやはり人気が高く、たくさん子どもたちが参加をしてくれています。リンゴを使ったおやつづくりでは、過去最高に並ぶほどの参加者数となりました。今回は春巻きの皮や餃子の皮を使ってアップルパイ風にして食べることに。そのまま食べても本当に美味しいリンゴでしたが、自分たちで具を包んだり油で揚げたりなどの調理をして、みんなで食べるともっと美味しくなりました。子どもたちも「美味しい！」「自分のおうちでも作ってみる！」と話をしていました。



みんなで食べると美味しく倍増☆

10月の活動で作ったふるさと玉手箱が、交流相手の学校から送られてきました。静岡県の清水江尻小学校6年生のみなさんが作ってくれた玉手箱の中身に子どもたちも興味津々。送られてきた箱の中には、七夕祭りの飾り物や紙粘土でできた模型、地域のコトを調べた手作りパンフレットなどが入っていました。担任の先生からのお手紙には「ふるさとのイメージがぴったりな美しい自然に囲まれたところなんだろうな、とみんなで想像しています」とあり、子どもたちがつくった玉手箱が、遠く離れた静岡の子どもたちの手に届き、厚真町のPRに少しでも役に立っていたら良いなと思いました。子どもたちの好奇心をくすぐる面白い活動になったと思います。

